授業科目名： 日本語学講義Ⅰ（文法）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山田　昌裕 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　国語及び高等学校　国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		

授業のテーマ及び到達目標

日本語文法に関する通時的知識を身につけ、それを踏まえた上での資料分析、数量的分析などの文法的研究方法の習得を目標とする。

授業の概要

授業では、格とヴォイス、とりたて、主題、テンス、アスペクト、ムード、ダイクシス、複文構造などの重要トピックに関して、それぞれの先行研究を紹介しながら、古典語から近代語までの活字資料や電子資料を参照しつつ、日本語の文法的変容の様相について講義する。講義に当たっては基礎的な情報収集を受講生に課する。

授業計画

第１回：先行研究の調べ方
第２回：活字資料、電子資料の調べ方
第３回：格標示の変遷
第４回：「ガ」と「ノ」の変遷
第５回：ヴォイス（受身表現）の変遷
第６回：とりたて（副助詞）の変遷
第７回：係り結びの変遷と主語表示
第８回：係り結びの変遷と主題
第９回：テンス形式の変遷
第１０回：アスペクト形式の変遷
第１１回：ムード（モダリティー）形式の変遷
第１２回：指示語の変遷とダイクシス
第１３回：準体句の変遷と複文
第１４回：日本語文法史のまとめ

テキスト

ガイドブック　日本語文法史（高山善行、青木博史　ひつじ書房　2010）

参考書・参考資料等

適宜授業内で紹介する。また補助教材を配布する。

学生に対する評価

授業参加の姿勢40%、レポート60%で評価する。

授業科目名： 日本語学講義Ⅱ（語彙）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 駒走　昭二 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　国語及び高等学校　国語）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		

授業のテーマ及び到達目標

語彙論的思考の獲得をテーマとし、受講生が日本語語彙論の概要を把握するとともに、その基本的な考え方を身につけることを目標とする。

授業の概要

語彙論には、個々の単語に注目し、その意味や変遷を追究する元素論的な分野と、それを語の集団として捉え、その構造を考察する総体論的な分野があるが、ここでは後者を優先する。授業においては、古典文学作品、各種古語資料ならびに現代語を対象とし、語彙がどのような原理のもとに作られているのか、また、時代や地域の要請に適応すべくどのような原理で姿を変容したのかということに主眼を置き、これまでの研究成果を具体的に挙げながら講義する。

授業計画

第１回：授業の目的と方法（ガイダンス）
第２回：語彙の性質と分類
第３回：語彙の体系と構造
第４回：語彙体系の変化とその要因
第５回：古代の語彙 ― 平安文学と語彙 ―
第６回：中世の語彙① ― 漢語の広がりと規範の変化 ―
第７回：中世の語彙② ― 外国資料に見られる日本語の近代語化 ―
第８回：近世の語彙 ― 位相による語彙の違い ―
第９回：近代の語彙① ― 言文一致体と語彙 ―
第１０回：近代の語彙② ― 現代語の形成 ―
第１１回：現代の語彙① ― 現代社会と語彙 ―
第１２回：現代の語彙② ― 語彙の規範と改良 ―
第１３回：方言の語彙① ― 地域世界を映す言葉 ―
第１４回：方言の語彙② ― 中央語の伝播と方言語彙の変容 ―
定期試験

テキスト

特になし（授業時に適宜プリントを配布する）

参考書・参考資料等

シリーズ〈日本語の語彙〉1　語彙の原理―先人たちが切り開いた言葉の沃野―（石井正彦編　朝倉書店　2019） シリーズ〈日本語の語彙〉2　古代の語彙―大陸人・貴族の時代―（佐藤武義編　朝倉書店　2021） シリーズ〈日本語の語彙〉3　中世の語彙―武士と和漢混淆の時代―（安部清哉編　朝倉書店　2020） シリーズ〈日本語の語彙〉4　近世の語彙―身分階層の時代―（小野正弘編　朝倉書店　2020） シリーズ〈日本語の語彙〉5　近代の語彙（1）―四民平等の時代―（陳力衛編　朝倉書店　2020） シリーズ〈日本語の語彙〉6　近代の語彙（2）―日本語の規範ができる時代―（飛田良文　朝倉書店　2022） シリーズ〈日本語の語彙〉7　現代の語彙―男女平等の時代―（田中牧郎編　朝倉書店　2019） シリーズ〈日本語の語彙〉8　方言の語彙―日本語の彩る地域語の世界―（小林隆編　朝倉書店　2018）
学生に対する評価 レポート30％、定期試験70％で評価する。

授業科目名： 日本語学研究Ⅰ（文法）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山田　昌裕 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　国語及び高等学校　国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		

授業のテーマ及び到達目標

活字資料や電子資料、各種コーパスなどを用いて、データを数量的・多角的に分析し、文法現象を論理的に説明できる研究能力を身につけることを目標とする。

授業の概要

①　検索可能な活字資料や電子資料にはどのようなものがあり、どのように検索するのかについて、また各種コーパスを用いた用例検索のしかたなどについて講義をする。②　またそこから得られたデータをどのようにまとめ、どのように分析すれば文法現象に関する知見を得られるのか、数量的分析の基本的思考法や、分析のための多様な観点について講義をする。

授業計画

第１回：活字資料と総索引
第２回：検索可能な各種電子資料
第３回：検索サイトを用いた調査方法
第４回：全文検索システム『ひまわり』による調査方法
第５回：コーパス検索アプリケーション「中納言」と各種コーパス
第６回：コーパス検索アプリケーション「中納言」の検索方法
第７回：Excelを用いた用例の処理
第８回：Excelを用いた数量的分析
第９回：文法理論と記述文法
第１０回：文法現象の捉え方１：テキストと文体
第１１回：文法現象の捉え方２：位相
第１２回：文法現象の捉え方３：表現
第１３回：文法現象の捉え方４：対照
第１４回：コーパスを用いた文法分析のまとめ

テキスト

コーパスで学ぶ日本語学　日本語の歴史（田中牧郎編　朝倉書店　2020）

参考書・参考資料等

適宜授業内で紹介する。また補助教材を配布する。

学生に対する評価

授業参加の姿勢40%、最終課題60%

授業科目名： 日本語学研究Ⅱ（語彙）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 駒走　昭二 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　国語及び高等学校　国語）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		

授業のテーマ及び到達目標

語彙論的探究力の獲得をテーマとし、受講生が日本語の語彙に関する課題を自ら見つけ、それを追究するための知識と技能を身につけることを目標とする。

授業の概要

古典文学作品や各種古語資料で用いられた語彙を採り上げ、日本語語彙の変遷について講義する。特にその量的な側面を重視するため、国立国語研究所が構築した「日本語歴史コーパス」等の各種コーパスを利用する。受講生は、それらを活用することによって、語彙の連結パターンに注目した語彙的意味の研究や、語彙の史的展開に注目した通時的な研究方法を理解する。また、語彙研究における史料批判の重要性についても具体例を示しながら解説する。

授業計画

第１回：授業の目的と方法（ガイダンス）
第２回：語彙史研究と語彙的カテゴリー
第３回：コーパスを用いた語彙研究の特徴
第４回：現代日本語語彙の通時的変化
第５回：複合助詞の用法と機能
第６回：多様なコーパスの可能性
第７回：言語形式と意味との関係
第８回：コーパス理解と史料批判の重要性
第９回：語彙史としての語構成史
第１０回：意味から見た語彙史
第１１回：漢語から見た語彙史
第１２回：文体・位相から見た語彙史
第１３回：計量語彙論から見た語彙史
第１４回：文化から見た語彙史
定期試験

テキスト

コーパスと日本語学（田野村忠温編　朝倉書店　2014）

参考書・参考資料等

シリーズ日本語史2　語彙史（安部清哉、斎藤倫明、岡島昭浩、半沢幹一、伊藤雅光、前田富祺　岩波書店　2009）
学生に対する評価 レポート30%、定期試験70%で評価する。

授業科目名： 日本文学講義Ⅱ（近現代）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松本　和也 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　国語及び高等学校　国語）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		

授業のテーマ及び到達目標

本講義の到達目標は、受講生が、①日本近現代文学研究の歴史と現状を把握し、②問題意識や研究対象に応じた複数の方法論として、特に「テクスト」「文化理論」「言説分析」について学び、③それを多様な文学作品の研究に応用する力を身につけることにある。

授業の概要

この講義では、日本近現代文学研究を主な研究対象として、研究方法を軸として理論的な概説とその実践的応用例の紹介・ポイントの整理を提示していく。具体的には、先行研究を通じて文学研究への多角的アプローチを確認した上で、「テクスト」、「文化理論」、「言説分析」について理論と実践（作品研究への応用例）をブリッジするかたちで講じていく。

授業計画

第１回：ガイダンス（授業内容の説明・確認）
第２回：近現代文学研究への多角的アプローチ
第３回：パラテクストへの注目と意味づけ
第４回：「テクスト」の理論的射程
第５回：テクスト分析の方法と実践①（情報量と空所）
第６回：テクスト分析の方法と実践②（時間の操作）
第７回：テクスト分析の方法と実践③（構造と話法）
第８回：「文化理論」の理論的射程
第９回：作家情報の調査と作品研究への応用①（伝記情報と作品史）
第１０回：作家情報の調査と作品研究への応用②（文学者の社会的状況）
第１１回：「言説分析」の理論的射程
第１２回：作品背景の調査と作品研究への応用①（社会的事実の調査）
第１３回：作品背景の調査と作品研究への応用②（言説の調査と分析）
第１４回：近現代文学研究の方法と実践（まとめ）

テキスト

テクスト分析入門　小説を分析的に読むための実践ガイド（松本和也編　ひつじ書房　2016）

日中戦争開戦後の文学場:－報告／芸術／戦場（松本和也　神奈川大学出版会　2018）

参考書・参考資料等 　受講生の興味関心に即して、適宜、紹介する。
学生に対する評価 　授業時に報告用として提出するレジュメや授業時の発言などによる授業への貢献50%、レポート50%によって評価する。

授業科目名： 日本文学研究Ⅱ（近現代）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松本　和也 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　国語及び高等学校　国語）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		

授業のテーマ及び到達目標

この授業では研究論文において「新たな見解」を説得的・論理的に提示するレベルでの近現代文学研究の方法を学ぶことをテーマとしている。到達目標は、日本の近現代文学を、国際的な視野をふまえて研究するための基本的な手続き・方法を学び、受講生が自らの問題関心をねりあげながら修士論文を執筆する力を身につけることにある。

授業の概要

この講義では、日本近現代における文学テクストを主な対象として、研究論文として「新たな見解」を説得的・論理的に提示するための理論的ポイントを作業の諸局面ごとにチェックしながら、受講生による報告・ディスカッションを中心とした演習を行う。

授業計画

第１回：ガイダンス（授業内容の説明・確認）
第２回：研究テーマ・問題関心の練り上げ方
第３回：先行研究のリサーチと批判的検討
第４回：理論的補助線のリサーチと批判的検討
第５回：研究計画・方法論の選択と検討
第６回：教員が指定した作家・作品（発表時期）についての検討
第７回：モチーフ・同時代評についての検討
第８回：同一作家の前後する時期の作品についての検討
第９回：教員が指定した作品の文化的背景についての検討
第１０回：教員が指定した作品のテクスト分析
第１１回：第６回～第１０回までに教員が指定した作品発表前後の他作品の検討
第１２回：テクストが関わる主題に関する言説分析
第１３回：これまでの蓄積を踏まえた問題関心の再設定
第１４回：学習事項のまとめと展望

テキスト

教員から、授業内で適宜検討すべき作品を指示する。

参考書・参考資料等

昭和一〇年代の文学場を考える－新人・太宰治・戦争文学（松本和也　立教大学出版会　20

15） 　文学と戦争　言説分析から考える昭和一〇年代の文学場（松本和也　ひつじ書房　2021）
学生に対する評価 　授業時に報告用として提出するレジュメや授業時の発言などによる授業への貢献30％、レポート70％によって評価する。

授業科目名： 漢文学講義	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 林　教子 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　国語及び高等学校　国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		

授業のテーマ及び到達目標

中国古典作品（主として散文）を読解することが授業のテーマである。到達目標は、⑴古典中国文学が日本の文化・文学に及ぼした影響について説明できる。⑵漢文法の基礎を理解し、原文を正確に読解できる。の2点である。

授業の概要

中国古典作品が日本文化・文学にどのように受容され、また、どのように独自の発展を遂げたて来たかを、具体的な作品分析を通して理解する。授業の前半は、主として日本文化に影響を及ぼした中国古代の古典的なテキストを原文に即して読解・分析していく。後半は中国古典文学と日本文学の橋渡し的な役割を果たした存在として、平安王朝期の菅原道真から明治期の夏目漱石らの作品(いわゆる「日本漢文」)を中心に読んでいく。授業では、講義とともに、学生による研究・協議、発表の時間を設けて実施する。具体的には「菅家後集」や「漱石全集」所収の漢詩文をテキストとして、日本における漢文訓読法の形成過程についても触れながら行う。なお、毎回の授業の導入部で各回課題レポートについてフィードバックを行う。

授業計画

第１回：講義の目標及び内容・講義の進め方・調査の仕方などの説明
第２回：『論語』と孔子の生涯　テキストｐ44『論語』を読む
第３回：『論語』と日本文化　江戸期の漢学『論語』の流行
第４回：高祖本義と項羽本義　テキストp18『史記』を読む
第５回：『史記』と日本文学（1）　「鶏鳴狗盗」を読む
第６回：『史記』と日本文学（2）　「鶏鳴狗盗」と『枕草子』
第７回：「漢文と日本文学」前半総括（フィードバック）　日本における漢文の隆盛について
第８回：中古日本漢文を読む　テキストｐ68「不出門」菅原道真
第９回：日本漢文と平安文学　菅原道真と「大鏡」
第１０回：近世日本漢文を読む　テキストｐ98「一ノ谷の戦い」（『日本外史』）
第１１回：比較読み『日本外史』と『平家物語』「一ノ谷の戦い」の場面を比較・分析する
第１２回：近代日本漢文を読む　テキストｐ106『航西日記』森鷗外
第１３回：明治の文人と漢文　鷗外・漱石・子規と漢文
第１４回：「日本文学と漢文」総括（フィードバック）　各自が選択したテーマについて発表・協

議する
テキスト 漢文資料を読む 日本語ライブラリー（沖森卓也他編著　朝倉書店　2013） その他、必要に応じて資料プリントを配布する。
参考書・参考資料等 漢文訓読入門（古田島洋介、湯城吉信著　明治書院　2011）
学生に対する評価 各授業の課題（60%）と学期末の課題レポート（40%）として評価する。

授業科目名： 漢文学研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 林　教子 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　国語及び高等学校　国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		

授業のテーマ及び到達目標

中国古典作品（主として韻文）を読解することがテーマである。到達目標は、⑴中国古典作品の文体や形式を理解し作品解釈法を身に付ける。⑵解釈の参考となる書籍や先行研究に興味を持ち調査する。の2点である。

授業の概要

中国古典文学が日本文学に与えた影響を具体的に研究するため、日本人による漢詩文作品を中心に読解していく。授業の前半は、平安期の菅原道真から夏目漱石ら明治期の文人までの漢詩を中心に扱う。その際、中古から近世の漢文体で書かれた「説話集」（「江談抄」等）も適宜織り交ぜながら読み進めて、文体の多様性に対する理解を深める。後半は、学生自身の専攻分野と関連した作者・作品を、各自がテーマを設定して調査・分析を行う。授業では、講義とともに、学生による研究・協議、発表の時間を設けて実施する。また関連する中国古典テキストや先行論文にも随時言及していく。なお、毎回の授業の導入部で各回課題レポートについてフィードバックを行う。

授業計画

第１回：講義の目標及び内容・講義の進め方・調査の仕方などの説明
第２回：唐詩と日本漢詩　李白「静夜思」の本文と解釈　日中両国の異動を調査研究
第３回：菅原道真と漢詩（１）「九月十日」「不出門」「読家書」
第４回：菅原道真と漢詩（２）「九月十日」と『大鏡』
第５回：安倍仲麻呂と漢詩文（１）　王維・李白との交流
第６回：安倍仲麻呂と漢詩文（２）　説話集『江談抄』安倍仲麿読歌事など
第７回：説話集の文体研究　『江談抄』『日本霊異記』『宇治拾遺物語』『今昔物語集』
第８回：江戸期の漢文学（１）『唐詩選』の流行　服部南郭『唐詩選国字解』
第９回：江戸期の漢文学（２）『史紀』と『日本外史』　頼山陽「題不識庵撃機山図」「本能寺」
第１０回：江戸期の漢文学（３）　私塾と漢文学　　広瀬淡窓「桂林荘雑詠　示諸生」
第１１回：明治期の文人と漢詩文（１）夏目漱石「題自画」「春日偶成十首」其七
第１２回：明治期の文人と漢詩文（２）正岡子規「送夏目漱石之伊予」、森鷗外「航西日記」
第１３回：近代日本と漢詩文　ジャーナリストとしての視点　芥川龍之介と中島敦
第１４回：日本漢詩文の総括（フィードバック）　日本漢詩に関する先行論文の整理と考察

テキスト 　漢文資料を読む 日本語ライブラリー（沖森卓也編著　朝倉書店　2013） 　その他、必要に応じて資料プリントを配布する。
参考書・参考資料等 　漢学と日本語　講座近代日本と漢学第7巻（佐藤進・小方伴子編　戎光祥出版　2020）
学生に対する評価 　各授業の課題（40%）と学期末の課題レポート（60%）とで評価する。

授業科目名： 日本文化学講義Ⅰ（近世以前）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤澤　茜 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　国語及び高等学校　国語）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		

授業のテーマ及び到達目標

近世以前の日本の伝統文化に関する主要なテーマを取り上げ、現在の研究状況や課題を理解し、文化史研究に不可欠な文献調査をはじめとする研究方法を身につけることを目標とする。

授業の概要

近世以前の日本の伝統文化について、①主に能楽、歌舞伎、人形浄瑠璃などの演劇、②絵巻や浮世絵などの絵画の２分野について取り上げる。それぞれの分野の特質を理解し、それぞれがどのように継承されてきたのかという問題を検討する。その際に必要な調査方法や、原資料を読む際に必要なくずし字の解読に関する講義も、随時行う。

授業計画

第１回：授業の目的と方法（ガイダンス）
第２回：伝統芸能とは何か―享受者と継承者―
第３回：伝統芸能の特質①　世阿弥と能
第４回：伝統芸能の特質②　能と狂言
第５回：伝統芸能の特質③　人形浄瑠璃の三業―太夫・三味線・人形遣い―
第６回：伝統芸能の特質④　人形浄瑠璃と歌舞伎
第７回：伝統芸能の特質⑤　歌舞伎と役者
第８回：伝統芸能の特質⑥　歌舞伎と絵画資料
第９回：絵巻と文学―くずし字の解読―
第１０回：絵巻にみる多彩な表現力
第１１回：近世における絵画―琳派・円山四条派―
第１２回：浮世絵と庶民文化
第１３回：浮世絵に見る情報性―メディアとしての役割
第１４回：伝統文化の現在―まとめ―

テキスト

授業時にプリントを配布する。

参考書・参考資料等

浮世絵が創った江戸文化（藤澤茜　笠間書院　2013）

学生に対する評価

小レポート30％・学期末レポート70％で評価する。

授業科目名： 日本文化学講義Ⅱ（近現代）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 水川　敬章 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　国語及び高等学校　国語）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		

授業のテーマ及び到達目標

日本の近現代文化について研究するために必要な方法論・理論について専門的かつメタ的な検討を行うことを目標とする。

授業の概要

本授業では、日本近現代文化を研究するために必要な方法論について多角的横断的に検討する。日本近現代文化は、これまで様々な研究分野から研究がなされてきたが、本授業においては、とりわけ文学・アニメ・映画・音楽を中心とした表現文化・表象文化を対象として、日本文学・日本学を基盤として行われる文化研究のアプローチを扱う。講義形式。

授業計画

第１回：ガイダンス
第２回：日本近現代文学研究と文学・文化批評理論の関係性
第３回：表現文化研究のための文学・文化批評理論１：物語論・構造主義の応用
第４回：表現文化研究のための文学・文化批評理論２：脱構築
第５回：表現文化研究のための文学・文化批評理論３：ジェンダー
第６回：表現文化研究のための文学・文化批評理論４：セクシュアリティ
第７回：表現文化研究のための文学・文化批評理論５　：視聴覚文化（アニメ）
第８回：表現文化研究のための文学・文化批評理論６　：視聴覚文化（映画）
第９回：表現文化研究のための文学・文化批評理論７　：視聴覚文化（アダプテーション）
第１０回：表現文化研究のための文学・文化批評理論８　：視聴覚文化（ポピュラー音楽）
第１１回：日本近現代文学研究におけるカルチュラル・スタディーズ受容
第１２回：表現文化研究の実践１：押井守の映像作品の分析
第１３回：表現文化研究の実践２：山下達郎作品の分析
第１４回：　まとめ

テキスト

授業時にプリントを配布する。

参考書・参考資料等

ジェンダー／セクシュアリティ（田崎英明　岩波書店　2000）
無能なものたちの共同体（田崎英明　未來社　2007）

ビフォア・セオリー（田辺秋守　慶應義塾大学出版会　2006） 文学理論（西田谷洋　ひつじ書房　2014） アニメ・マシーン（トーマス・ラマール・藤木秀朗監訳　名古屋大学出版会　2013） さよならアメリカ、さよならニッポン（マイケル・ボーダッシュ、奥田祐士訳　白夜書房　2012）
学生に対する評価 小レポート（3回）60%、レポート40%で評価する。

授業科目名： 日本文化学研究Ⅰ（近世以前）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤澤　茜 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　国語及び高等学校　国語）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		

授業のテーマ及び到達目標

近世以前の日本の伝統文化について、現在の研究状況を理解し、修士論文を執筆するために必要な研究手法を身につけ、実践することを目標とする。

授業の概要

日本の伝統文化について、①能楽、歌舞伎、人形浄瑠璃などの脚本、②絵巻や江戸時代の小説など絵画を伴う文学作品を取り上げ、その研究に不可欠な実地調査に関する方法を講義にて学び、受講生各自の研究に役立てる。さらに、受講生の研究分野を日本文化全般の中で位置づけるため、変体仮名の解読などを含む文学的アプローチや周辺分野に関する調査、研究方法についても習得し、広い視野での検討を目指す。

授業計画

第１回：授業の目的と方法（ガイダンス）
第２回：雅楽と東アジア文化―海外文化の摂取―
第３回：芸能の調査方法①　謡本の調査と文学作品への影響
第４回：芸能の調査方法②　能舞台・能面・装束
第５回：芸能の調査方法③　人形浄瑠璃の脚本の分析
第６回：芸能の調査方法④　人形浄瑠璃の首と種類
第７回：芸能の調査方法⑤　歌舞伎の脚本の分析
第８回：芸能の調査方法⑥　歌舞伎の番付、上演記録の調査
第９回：芸能の調査方法⑦　地芝居における演技の継承
第１０回：絵画の調査方法①　絵巻における絵と本文との関係性
第１１回：絵画の調査方法②　絵巻・奈良絵本における彩色
第１２回：絵画の調査方法③　浮世絵師による小説の挿絵と本文との関係性
第１３回：絵画の調査方法④　浮世絵における文学的画題
第１４回：伝統文化と現代社会―まとめ―

テキスト

授業時にプリントを配布する。

参考書・参考資料等

浮世絵が創った江戸文化（藤澤茜　笠間書院　2013）

学生に対する評価

小レポート30％・学期末レポート70％で評価する。

授業科目名： 日本文化学研究Ⅱ（近現代）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 水川　敬章 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　国語及び高等学校　国語）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		

授業のテーマ及び到達目標

日本の近現代文化について研究するために必要な方法論・理論を運用・援用して、具体的な表現文化を分析することを目標とする。

授業の概要

近現代日本の文化及び文化史を研究するために必要な方法論、理論を運用・援用する力を高度化することを目的とする。明治期以降の視覚、聴覚、言語に関わる表現文化を対象とした分析・検討によって研究遂行能力の高度化を目指す。研究対象を確定した上で、先行研究の検討、フレイムワークの検討、一次資料の検討、分析・考察の4段階のステップを実践する。演習科目。

授業計画

第１回：ガイダンス
第２回：言語・思想に関する表現文化の研究１：モデル論文（小説）の検討
第３回：言語・思想に関する表現文化の研究２：小説の分析
第４回：言語・思想に関する表現文化の研究３：モデル論文（詩）の検討
第５回：言語・思想に関する表現文化の研究４：詩の分析
第６回：視覚に関する表現文化の研究１：モデル論文（アニメ）の検討
第７回：視覚に関する表現文化の研究２：アニメの分析
第８回：視覚に関する表現文化の研究３：モデル論文（映画）の検討
第９回：視覚に関する表現文化の研究４：映画の分析
第１０回：視覚に関する表現文化の研究５：モデル論文（アダプテーション）の検討
第１１回：視覚に関する表現文化の研究６：アダプテーション作品の分析
第１２回：音楽に関する表現文化の研究１：モデル論文（ポピュラー音楽）の検討
第１３回：音楽に関する表現文化の研究２：ポピュラー音楽の分析
第１４回：これまでの発表についての総合的検討

テキスト

授業時にプリントを配布し、読むべき論文を指示する。

参考書・参考資料等

ジェンダー／セクシュアリティ（田崎英明　岩波書店　2000）

無能なものたちの共同体（田崎英明　未來社　2007） ビフォア・セオリー（田辺秋守　慶應義塾大学出版会　2006） 文学理論（西田谷洋　ひつじ書房　2014） アニメ・マシーン（トーマス・ラマール・藤木秀朗監訳　名古屋大学出版会　2013） さよならアメリカ、さよならニッポン（マイケル・ボーダッシュ、奥田祐士訳　白夜書房　2012）
学生に対する評価 授業内で行う発表70%とレポート30%で評価する。

授業科目名： 日本思想講義Ⅰ（近世以前）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 上原　雅文 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　国語及び高等学校　国語）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		

授業のテーマ及び到達目標

古代の神信仰から近世末期の復古神道までの神道思想の歴史を辿ることを通じて、日本思想における神観念の諸相について原理的に理解することを目標とする。

授業の概要

通史的な講義であるが、それぞれの時代の神道思想において、①祭祀儀礼（祭祀の時間・空間）、②神話(物語・説話)、③理論（「仏法」や「天」との関係、習合・排除・併存）、④政治（王権・倫理）がどのように考えられていたのかを原理的に考察し、講義する。

授業計画

第１回：古代の原初神道①―第一次神話と祭祀儀礼（時間論）
第２回：古代の原初神道②―『古事記』『日本書紀』神話と天皇の意味
第３回：古代の原初神道③―祭祀儀礼の場所と景観（空間論）
第４回：仏教の受容と神信仰の変容、「仏法」の意味
第５回：神仏習合（融合）の論理と意味
第６回：中世神道①―両部神道・伊勢神道の神観念、神話と儀礼
第７回：中世神道②―吉田神道の神観念と儀礼
第８回：儒学の受容と神信仰の変容、「天」の意味
第９回：儒家神道①―林羅山の神観念と倫理・政治思想
第１０回：儒家神道②―山崎闇斎の神観念と倫理・政治思想
第１１回：国学の神観念と倫理・政治思想
第１２回：水戸学の神観念と倫理・政治思想、尊皇攘夷
第１３回：復古神道の神話・神観念、霊魂観、倫理・政治思想
第１４回：神道諸派と明治維新への影響

テキスト

授業時にプリントを配布する。

参考書・参考資料等

授業時に適宜紹介する。

学生に対する評価

授業参加の姿勢（20%）とレポート（80%）で総合評価する。

授業科目名： 日本思想講義Ⅱ（近現代）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田中　久文 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　国語及び高等学校　国語）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		

授業のテーマ及び到達目標

日本の哲学が、西洋哲学をどのように摂取し、伝統思想をどのように活かしているかに注意しながら、原典を批判的に検討することを通して、日本の哲学史の特質を主に戦前を中心に理解する。その上で、それぞれの時代の課題に哲学者がどのように応答しようとしていたかを検証することを到達目標とする。

授業の概要

西田幾多郎から始まる「無」の哲学の概要を説明し、その影響を受けた田邉元、和辻哲郎、九鬼周造、三木清などによって、それがいかに展開されたかを解明する。特に現代にも大きな影響力をもっている和辻哲郎の倫理学や美学については詳細に分析する。また、彼らが戦争を始めとする時局にどう対応したかについても検討する。授業に当たっては、相良亨を始めとした先行研究にも充分に配慮した上で、議論を重ねながら自主的な意見を構築できるようにする。

授業計画

第１回：授業の目的と方法（ガイダンス）
第２回：西田幾多郎の哲学１：「純粋経験」論
第３回：西田幾多郎の哲学２：「無の場所」の哲学
第４回：西田幾多郎の哲学３：「絶対矛盾的自己同一」の世界
第５回：田辺元の哲学１：「種の論理」と「死の哲学」
第６回：田辺元の哲学２：「象徴」の美学
第７回：和辻哲郎の倫理学１：西洋の個人主義批判と「間柄」の倫理
第８回：和辻哲郎の倫理学２：「風土」論と多元的文化論
第９回：和辻哲郎の倫理学３：日本人の美学再検討
第１０回：九鬼周造の哲学１：「いき」の美学
第１１回：九鬼周造の哲学２：「偶然性」の哲学
第１２回：三木清の哲学１：「構想力」の哲学
第１３回：三木清の哲学２：「親鸞」論の意味
第１４回：まとめ：日本近代哲学の特質とその問題点

テキスト

日本の哲学をよむ－「無」の思想の系譜－（田中久文　筑摩書房　2015）

参考書・参考資料等 　西田幾多郎（田中久文　作品社　2020）
学生に対する評価 　レポート（100%）で評価する。

授業科目名： 日本思想研究I（近世以前）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 上原　雅文 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　国語及び高等学校　国語）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		

授業のテーマ及び到達目標

インドで成立した仏教思想の理解を前提とし、日本で展開した独自の仏教諸思想を原理的に理解し、日本思想史の中で果たした仏教の意味と役割について理解することを目標とする。

授業の概要

日本仏教史を軸とした講義であるが、仏教を哲学・倫理学の観点から原理的に考察していく。特に、インドの原始仏教と大乗仏教が日本においてどのように更新され展開していったのかを軸として講義する。その際、日本の神道との関係が問題となるため、「日本思想講義I（近世以前）」を履修済みであることが望ましい。また、日本の倫理・政治思想に与えた影響として、聖徳太子、国家仏教、慈円の思想に着目して講義する。

授業計画

第１回：インド仏教①―原始仏教・部派仏教の思想原理
第２回：インド仏教②―大乗仏教の思想原理
第３回：中国仏教の展開と諸宗派
第４回：聖徳太子の仏教受容と倫理思想
第５回：国家仏教の思想と儀礼、神仏関係
第６回：最澄の思想（戒律、仏性論）
第７回：空海の思想（密教儀礼の意味）
第８回：浄土思想の展開①―源信・法然
第９回：浄土思想の展開②―親鸞
第１０回：浄土思想の展開③―一遍
第１１回：修験道の思想と展開（神仏習合、修行場としての山岳）
第１２回：『愚管抄』に描かれた慈円の思想①―「道理」の諸相
第１３回：『愚管抄』に描かれた慈円の思想②―仏法と政治
第１４回：禅宗の思想（栄西・道元）

テキスト

授業時にプリントを配布する。

参考書・参考資料等

授業時に適宜紹介する。

学生に対する評価

授業参加の姿勢（20%）とレポート（80%）で総合評価する。

授業科目名： 日本思想研究Ⅱ（近現代）	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田中　久文 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　国語及び高等学校　国語）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項		

授業のテーマ及び到達目標

日本の戦後における主要な思想家・哲学者の思想の概要を、フランスを中心にした同時代の西洋思想の動向との関連も視野に入れながら理解するとともに、それが戦後社会の課題にどう答えられているのかを明確にすることを到達目標とする。

授業の概要

戦後日本を代表する思想家・哲学者である丸山眞男、吉本隆明、廣松渉、大森荘蔵などの思想を、「近代」や「日本」という概念を中心に分析する。丸山や吉本に関しては象徴天皇制の理解を中心に考える。廣松や大森に関しては西田幾多郎との関連を明らかにしながら、そこにみられる戦後的特質について考える。また、戦後の世界に大きな力をもったフランス現代思想が日本にどのような影響を与えたかについても検討する。授業では、これらの思想を戦後社会を生きるみずからの問題として捉えることができるように議論を深めていく。

授業計画

第１回：授業の目的と方法（ガイダンス）
第２回：象徴天皇制と戦後社会１：和辻哲郎の天皇論
第３回：象徴天皇制と戦後社会２：丸山眞男の天皇論
第４回：戦後民主主義をめぐって１：丸山眞男の「永久革命」論
第５回：戦後民主主義をめぐって２：丸山眞男は「近代」主義者なのか
第６回：戦後民主主義をめぐって３：吉本隆明の丸山眞男批判
第７回：西田哲学と戦後哲学１：日本の哲学と「近代」批判
第８回：西田哲学と戦後哲学２：西田の「純粋経験」論と大森荘蔵の「立ち現われ」論
第９回：西田哲学と戦後哲学３：西田の「無」の哲学と廣松渉の「事的世界」観
第１０回：「日本」思想をどう捉えるか１：和辻哲郎の「重層文化」論
第１１回：「日本」思想をどう捉えるか２：丸山眞男の「原型」論
第１２回：「日本」思想をどう捉えるか３：「日本」思想を「開く」には
第１３回：フランス現代哲学との関り：日本の哲学はどのような影響を受けたか
第１４回：まとめ：日本の戦後思想の特質とその問題点

テキスト

特になし

参考書・参考資料等 　象徴天皇を哲学する（田中久文　青土社　2018） 　再考　三木清－現代への問いとして（田中久文他編　昭和堂　2019）
学生に対する評価 　レポート（100%）で評価する。

授業科目名： 国語教育学講義	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 澤口　哲弥 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　国語及び高等学校　国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

現代における社会的な諸課題と国語教育との関連を考え、社会と国語科をつなぐこれからの時代の新しい国語教育、および国語教育研究を展望する。内容論、方法論、教材論など、さまざまな研究領域における先行研究、実践を論文や実践報告、映像記録などをもとに多角的に検討し、国語教育の問題の在処を明らかにする。また、それらを踏まえた新しい内容、指導理論を構想し、それらを批判的に検討する。これらによって、理論と授業をつなぐ実践者としての資質、技能を養う。

授業の概要

今日的な社会状況における国語科の学びの位置を俯瞰し、これから目指すべき国語教育の形を展望する。学習指導要領に見られる学力観の変化や社会的要求との関連、現代の中学・高等学校国語科の現状の分析と課題の整理、国語科教育学の先行研究の概観、学習者が批判的かつ主体的にテクストに向き合いそれを生み出す方略の考察、魅力ある教材づくり、授業評価やテスト戦略など、具体的な教育課題、研究、実践を踏まえた授業を展開する。

授業計画

第１回：社会状況の変化と国語科
第２回：学習指導要領概説―何が変わり、何が変わっていないのか
第３回：内容論としての「思考力・判断力・表現力」
第４回：方法論としての「主体的対話的で深い学び」
第５回：「話すこと・聞くこと」の学習指導に関わる実践と研究
第６回：「書くこと」の学習指導に関わる実践と研究
第７回：「読むこと」の学習指導に関わる実践と研究
第８回：国語科と社会をつなぐ①―情報・コミュニケーション
第９回：国語科と社会をつなぐ②―リテラシー
第１０回：国語科と社会をつなぐ③―転移と評価
第１１回：学習評価の方法と戦略―新しい学力観における評価・テスト
第１２回：教材の開発―自主編成授業の可能性
第１３回：国語科展望―社会に適応する国語科から社会を創り出す国語科へ
第１４回：まとめと課題

テキスト 特になし
参考書・参考資料等 国語科クリティカル・リーディングの研究（澤口哲弥　溪水社　2019） 国語科教育学研究の成果と課題Ⅲ（全国大学国語教育学会　溪水社　2022） 中学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示　文部科学省） 中学校学習指導要領解説　国語編（平成29年7月　文部科学省） 高等学校学習指導要領解説　国語編（平成30年7月　文部科学省）
学生に対する評価 日常の取り組み（「振り返りシート」等）40%、期末レポート60%の配分で点数化する

授業科目名： 国語教育学研究	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 澤口　哲弥 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　国語及び高等学校　国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

国語教育における諸課題からテーマを抽出し、実践的な見地からその解決の道筋を考え、教科教育における専門性及び指導の力量を高める。学習指導要領の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」や、「主体的で対話的な深い学び」等に関わる近年の研究や実践を批判的に検討し、自らの研究課題に即した新しい指導理論等を構築する。また、必要に応じて実地での調査、実践を行い、その可能性を探る。これらによって、理論と実践をつなぐ実践者として資質、技能を養う。

授業の概要

予測不可能な社会状況のなか、さまざまな情報と向き合いそれらを統合し活用する力、また現実を批判的に捉え直し新しいテクストを生み出す力を育む理論として、国語科クリティカル・リーディング（国語科CR）の指導理論を学び、その視座から今日の国語教育の諸問題を検討する。学習指導要領の目指す方向性（三つの柱）、国語教育に関わる先行研究や実践などを具体的かつ批判的に検討し、新しい指導理論を構築するための問題意識、知識を醸成する。

授業計画

第１回：「批判的」と国語教育
第２回：学習指導要領に見る「批判的」に関わる資質・能力観―三つの柱に関わって
第３回：クリティカル・リーディング序説―先行研究に見る指導観
第４回：国語科CRの指導理論①―読解プロセス（マクロ・アプローチ）
第５回：国語科CRの指導理論②―フレームワーク（ミクロ・アプローチ）
第６回：国語科CRの指導理論③―情報の統合と立問、推論
第７回：国語科CRの指導理論④―テーマの措定と社会的転移、批評
第８回：国語科CRの指導理論⑤―「書くこと」との往還
第９回：国語科CRの指導理論⑥―評価（テスト問題）
第１０回：授業検討と再構築①―文学的文章
第１１回：授業検討と再構築②―説明的文章
第１２回：授業検討と再構築③―古典
第１３回：授業検討と再構築④―事例検討（実地調査もしくは実践）
第１４回：まとめと課題

テキスト 国語科クリティカル・リーディングの研究（澤口哲弥　溪水社　2019）
参考書・参考資料等 国語科教育学研究の成果と課題Ⅲ（全国大学国語教育学会　溪水社　2022） 中学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示　文部科学省） 中学校学習指導要領解説　国語編（平成29年7月　文部科学省） 高等学校学習指導要領解説　国語編（平成30年7月　文部科学省）
学生に対する評価 日常の取り組み（「振り返りシート」等）40%、期末レポート60%の配分で点数化する